

Kumamoto Artpolis '96

EVENT SCHEDULE

●くまもとアートポリス'96 イベントスケジュール

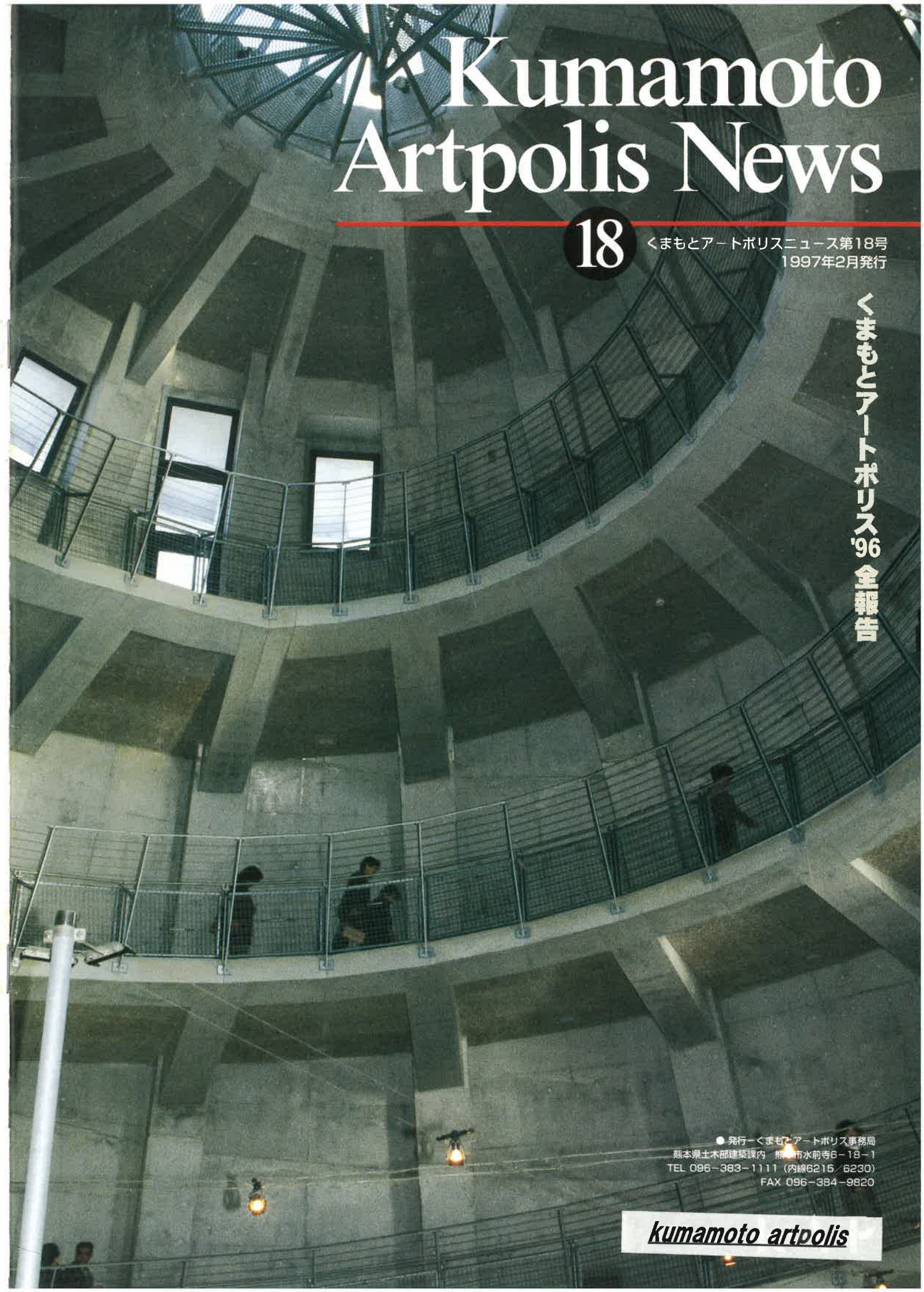
	7	8	9	10	11
アートポリスと世界の建築展		<p>◆アートポリス見学会 バスツアー 8/23~25 阿蘇・八代</p>			<p>◆アートポリス展覧会 熊本県立美術館分館 11/1~12/1 くまもとアートポリス参加建築展 熊本の風景展-建築文化と遺産 世界のまちづくり展-環境と文化 世界のまちづくり展-アートとまちづくり</p> <p>◆アートポリス見学会 バスツアー 11/1~17 11/1 阿蘇・八代 11/2 五家荘 11/5 三角・松島 11/9 清和・石橋群 11/16~17 天草 レンタカー等利用による見学者への利便性</p>
国際交流シンポジウム					<p>◆都市デザインサミット 熊本県立劇場 11/2~4</p> <p>◆アートポリスフォーラム 熊本県立劇場 11/30</p>
まちづくり展		<p>◆清和むらづくり展 村づくり大発表会 村民体育館 8/3~4 清和文楽館軸組模型組立ワークショップ 清和文楽邑 8/3 清和文楽人形芝居観劇会 清和文楽邑 8/4 村づくりフォーラム 清和文楽邑 8/4</p>	<p>◆泉むらづくり展 棟上げシンポジウム ふれあいセンターいすみ 9/14 記念イベント 「平家伝説の里」 ツアーと民俗交流会 村内全域 9/14~15</p>	<p>◆山鹿まちづくり展 オープニングイベント10/12 伝統と未来のまちづくり講演会 山鹿市民会館 10/13 展示会10/12~18</p> <p>◆阿蘇まちづくり展 阿蘇町農村公園アートプロジェクト コンペティション 町民体育館 10/18 最終審査 環境とアートポリス展 農村環境改善センター 10/21~27 まちづくりシンポジウム 農村環境改善センター 10/27 まちづくり体験オリエンタリング10/26</p>	<p>◆熊本まちづくり展 名画レイトショー(電気館) 10/28~11/1 アートストリート(市街中心部) 10/29~11/5 ストリートサイン・ウォーキングギャラリー KAP文化祭 環境・文化発見オリエンタリング(10/26) アートステーション 10/29~11/5 下通21世紀空き地、新市街空き地及び 西崎三井ビル等一空地を活かした作品設置 上通ギャラリー(10/31~11/5) ファーレ立川展 上通郵便局(10/31~11/5)彫金・写真作品展 二の丸公園(11/3)けんちく祭り(協賛事業) サテライトイベント フランク・ロイド・ライト展覧会(熊本県立美術館分館) 9/3~8 シンポジウム(上通フィリングホール) 9/7 亀ヶ平団地夏祭り(亀ヶ平団地) 8/24 シンポジウム オープニングシンポジウム(上通フィリングホール) 11/9 利用者シンポジウム(新地団地集会所) 11/10 学生シンポジウム(スタジオリーフ) 11/4 構造シンポジウム(熊本学園大学) 11/16 設備シンポジウム(熊本学園大学) 11/16 施工者シンポジウム(熊本学園大学) 11/17</p>
協賛事業	<p>◆スペース ストラクチャーセミナー 熊本大学 H8.7~H9.1 熊本大学地域共同 研究センター</p> <p>◆水遊祭 「五ヶ瀬川の清流で 楽しいひととき」 蘇陽町馬見原橋周辺 7/27 蘇陽町</p> <p>◆第9回 JIA熊本建築家の会 会員作品展 熊本県立美術館分館 7/2~7 日本建築家協会九州支部</p>	<p>◆1996サマーフェスタ 「有明フェリーサンライズ輪流船」 長洲港フェリーターミナル 7/31~8/4 有明海自動車船送給組合</p> <p>◆カラースミューション …「色が街を創る」 上通ギャラリー 9/19~24 熊本産業デザイン協議会</p> <p>◆熊本建築パース展 八代市立博物館 9/10~16 熊本県建設業協会 9/25~10/4 熊本建築パース展実行委員会</p>	<p>◆アートポリスに オーケストラが やってきた! 新地団地 9/21 アートポリスを考える会</p> <p>◆「公共の色彩を考える」熊本シンポジウム 熊本市国際交流会館 10/9 くまもと公共の色彩を考える会 シンポジウム実行委員会</p> <p>◆熊本県技能祭 ハンスワールド'96 白川橋左岸河川敷 10/10~14 熊本県技能祭実行委員会</p> <p>◆アートポリス球磨川水辺の集い 八代市球磨川河川敷 10/19~20 八代建築設計監理協会</p> <p>◆何か発見 第8回歴史回廊城下町 熊本市-新地区 10/26~27 新まちづくりの会</p> <p>◆橋梁シンポジウム 上通同仁堂スタジオライブ 10/29 熊本県建築士会</p>	<p>◆第4回国際交流デザイン展 鶴屋 11/4~14 熊本デザイン専門学校</p> <p>◆くまもと未来環境づくり 進・歩・住・夢 熊本市国際交流会館 11/20 くまもと21の会</p> <p>◆けんちく祭り'96 熊本城二の丸公園 11/3 熊本県建設業協会建築部会連伸会</p> <p>◆アートポリスと共に/熊本の建築作品展 鶴屋 10/29~11/2 熊本県建築士事務所協会</p> <p>◆松橋町まちづくりワークショップ 松橋町 11/16 宇城ショッピングプラザ・バルシェ</p>	

Kumamoto Artpolis News

18

くまもとアートポリスニュース第18号
1997年2月発行

くまもとアートポリス'96 全報告



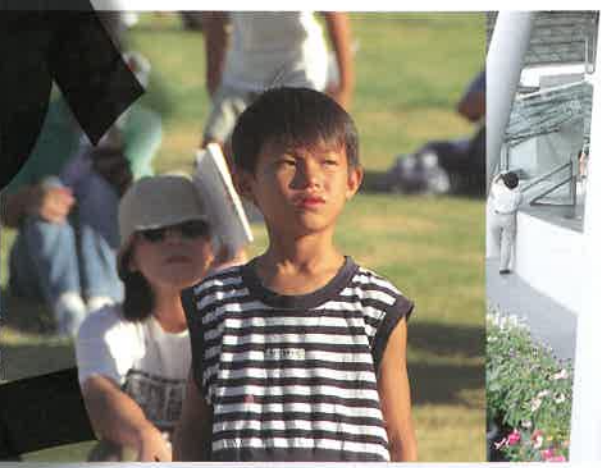
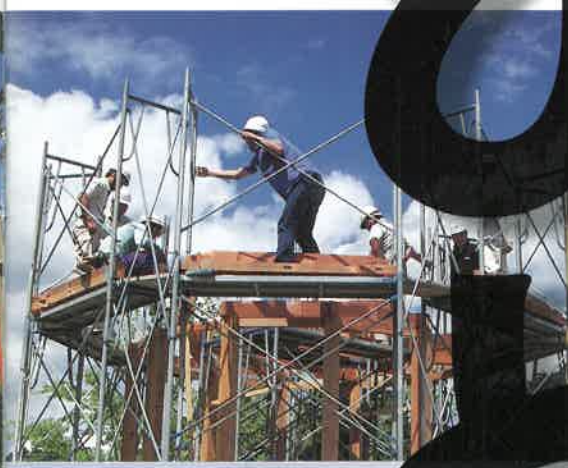
●発行-くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内 熊本市水前寺6-18-1
TEL 096-383-1111 (内線6215/6230)
FAX 096-384-9820

kumamoto artpolis

環境

Kumamoto Artpolis '96

地域を輝かす建築パワー全開



ひと



「後世に文化的遺産として残せるような建造物を」で始まった「くまもとアートポリス」も、今年で8年目。岡山、長崎などで類似の事業が生まれるなど、国内外で高く評価されてきている。

今回の「熊本国際建築展「くまもとアートポリス'96」」のテーマは、「環境・文化・ひと」。「環境」を大切に作る地域づくり、地域の「文化」を応援する建築、「ひと」が主役になるアート活動。すなわち、人間を中心とした環境、文化、アートを通じた「まちづくり」を集約した言葉をテーマに掲げて、人と建築との新たな関係を構築しようというもの。

従来通り、都市デザインとして建築展を一つの柱としながら、さらに人が介在する「まちづくり」という広がりのあるテーマを展開した。国内外あるいは県内で推進中のまちづくり事例を検証しながら、アートポリス8年間の成果を概観し、建築の地域における可能性を検討した。

アートポリスと世界の建築展

1988年に始まったアートポリス事業も今年で8年目。現在、事業参加作品は56件にのぼっている。これら参加作品を多くの人に見てもらうためにバスツアーを実施した。主として、建築関係者や学生等、専門家を対象とした、八代、阿蘇、三角・松島コースと、一般の人向けに五家荘、清和、天草コースを用意。設計者や建築専門家が同行して解説するなど、事業への興味を喚起した。また、熊本県立美術館分館で、参加作品をはじめとした建造物や国内外のまちづくりの事例をパネル、ビデオ、マルチメディアで紹介した。

国際交流シンポジウム

「くまもとアートポリス」を文化的事業として内外に知らしめ、多大な影響力を持つようになった国際交流シンポジウム。今回は、都市デザインの他に、地域づくりという視点を加えて建築の可能性を考えた。くまもとアートポリス・コミッショナーの磯崎新氏をはじめ、ディレクターの八束はじめ氏、クリエイティブタウン岡山コミッショナー、長崎県都市プロジェクト顧問、サンチャゴ・デ・コンポステラ市長、パリ大学教授など、国内外の建築家やまちづくりの専門家たちが、講演、パネルディスカッションを展開。都市デザインについて、相互の哲学やシステム、問題意識など意見を交換し合った。また、建築的な枠組みを超えて本事業が果たし得る可能性を探り、芸術・文化を通しての地域づくりの新たな方向性について語り合った。建築展の最終日には、アートポリスマニターによる意見発表と文化活動に携わる人々たちによるディスカッションを行い、これまでのアートポリス2期8年間を総括した。

アートポリスマちづくり展

現在、県内各地で、アートポリス参加建築物を核とした地域づくりが進められている。「清和文楽館」の建設により成功を収めている清和村、「ふれあいセンターいすみ」に都市との交流の場としての期待をかける泉村、17の参加作品を持ち、しかも市民生活に関係の深い建造物を作り続けている熊本市、最新プロジェクトとしてのアートプロジェクトコンペが行われた農村公園の建設計画を進めている阿蘇町、豊前街道を中心に町並み整備を進めている山鹿市。この5自治体がまちづくりのための事業を実施。建築物が地域あるいは地域住民にもたらす影響、波及効果を考えた。

協賛事業

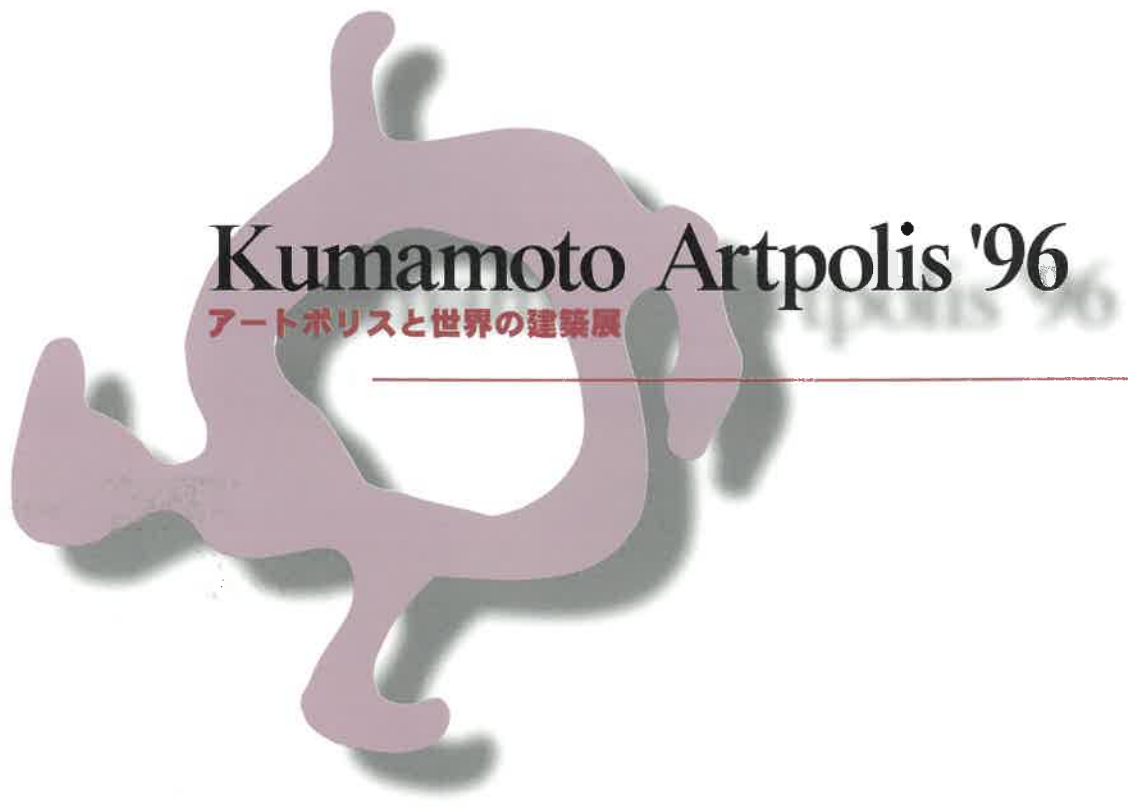
「環境・文化・ひと」のテーマに沿って、自治体をはじめ、建築専門家や地域づくりの市民グループが、それぞれの角度からユニークなイベントを実施。建築技術やデザイン、建築ベースなど、建築に関わるさまざまな要素を取り上げ、一般の人にも分かりやすく紹介した。また、音楽と団地、市民が描く未来の建築物、カラーシミュレーション、橋を会場とした祭りなど、建築物の新しい在り方を実験、模索した。

文化

アートポリス展覧会

熊本県立美術館分館では、11月1日(金)～12月1日(日)に「アートポリス展覧会」(見学者延べ3,517人)が開かれた。福島譲二熊本県知事や都市デザインサミットへの招待者など5人のテープカットで開幕。熊本県内のアートポリス参加プロジェクトや世界のまちづくり展を模型やパネル、マルチメディアで紹介するほか、KAPの設計図や施工図などを閲覧するコーナーも設置された。

また、「音や映像を通して作品を体で感じてもらいたい」とコーディネートされた会場の雰囲気や展示方法はユニークで、見学者を大いに楽しませた。



Kumamoto Artpolis '96

アートポリスと世界の建築展

点から線へ、線から面へ
アートポリスが、
くまもとを、世界をつなぐ



都市デザインサミットに先立って開幕した展覧会。ジャン・ルイ・コーエン氏をはじめ、国内外の建築関係者やアーティストらが熊本に集結した



見学者たちは出展都市の建築物などを紹介したドキュメントを念入りに見ている

世界のまちが熊本にやってきた 展覧会、いよいよ開幕

11月1日(金)から始まったアートポリス展覧会。初日には福島譲二熊本県知事や都市デザインサミットへの招待者が参加してのオープニングセレモニーが開かれた。福島知事は「21世紀を間近に控え、後世に文化的遺産として残せるような建造物をつくりましょう」と挨拶。熊本県文化協会会長三浦洋一氏、招待者の代表としてスペインのサンチャゴ・デ・コンポステラのヘラルド・エステベス市長ら5人によるテープカットのあと、いよいよアートポリス展覧会の幕が上がった。



左より境内清治くまもとアートポリスアドバイザー、清水 包県立美術館長、ヘラルド・エステベス サンチャゴ・デ・コンポステラ市長、福島県知事、三浦洋一氏によるテープカット

会場1

建物のあるまち くまもとの新風景を見た

高い天井、明るい照明。4階の会場では、「くまもとアートポリス参加プロジェクト」「くまもとアートポリスとまちづくり」「くまもとアートポリス推進賞」「くまもとアートポリス・デザインコンペティション'95」「くまもとアートポリス'92選定既存建造物」をパネルやビデオ、マルチメディアなどで紹介。東京から来た女性は「北警察署の斬新なデザインにびっくりしました」と話していた。



アートポリス参加プロジェクトの建物をパネルや模型、ビデオ、マルチメディアで分りやすく展示



「杖立橋+Pホール」の模型。模型で見ると、建造物をより全体的に促えることができる

会場2

環境とマッチしたまちづくり 世界の最先端を知る

2階は「世界まちづくり展 PART1：環境と文化」の会場。スペインのキリスト教聖地サンチャゴ・デ・コンポステラ市、建築文化的な観点からまちを開発したオランダのグローニンゲン市、長崎アーバン・ルネッサンスのまちづくりなど、地域の環境と文化を念頭においた国内外9都市の地域づくりの様子を、映像と音楽などからめ展示した。



国内外9都市のまちづくりの状況をパネルやドキュメントで紹介。壁に出展プロジェクト名などを映し出す展示方法も斬新

会場3

アートを通してまちを考える

1階は「世界まちづくり展 PART2：アートとまちづくり」の会場。人種間や階級差別などを訴える「アメリカの新しいパブリックアート」や、演劇やアートなどイベントを通してまちを活性化させた山梨県の「アートキャンプ白州」など国内外7つのまちづくりの実態を模型やパネルなどで紹介した。「ただの展示に終わらないイベントにしたい」というコーディネーターの願い通り、インスタレーションの家に入るなど、参加者は疑似体験を楽しんでいた。



アメリカのヒューストンにある「ショットガンハウス(労働者階級住宅)」のインスタレーション。このインスタレーションには実際に入ることができる

アートポリス見学会

8月23～25日、11月1～17日、アートポリス見学会が行われた。アートポリスの事業成果とアートポリスプロジェクトをはじめとする県内の代表的な建造物を視察見学するために、県内外から367人が参加。地域づくりなどに興味のある人向けには、2泊3日の夏休み見学ツアーをはじめ八代、阿蘇、三角、松島の4コース。また、一般向けには五家荘、清和、天草の3コースのバスツアーが行われた。学生や建築関係者そして主婦など、遠くは北海道、東北からの参加もあった。

これからの建物のありかたを学んだ 建築家の卵たち

専門的なコースには、建築関係者のほか学生の参加も目立った。「アートポリスの建造物が、地域にどんな影響を与えているか自分の目で見たかった」と言う建築学科の男子学生、「刺激的です！」と紅潮した顔で語る女子学生…。「建物は、形を見せるものではなく、その地域での動き、そして地域自体が見えてくるものでなくてはならない」と言う伊東豊雄氏の話に、首、大きくうなずいていた。



「橋なんだけどもっと楽しむことができれば。モノではなくて、場を走りまわりたい」と青木淳氏。馬見原橋にて



公衆によって命名された、ふれあいセンターいずみ

97年春オープンに向け建設が進む ふれあいセンターいずみ

11月2日に行われた、一般の人を対象にした五家荘コース。アートポリス推進賞を受賞した東陽村石匠館で石橋のモデルを組み立てて遊び、97年春オープンに向け建設が進む「ふれあいセンターいずみ」で構造をしっかりと目に焼きつけ…。その後、せんだん島の滝や平家の里など観光スポットを巡った。日帰りツアーではあったが、「人にとって建築そしてデザインとは何か」を考える良い機会になったようだ。



未完成の橋の上に立てたのも、アートポリス見学ツアーならではの

建設中の牛深ハイヤ大橋、 艶姿をご披露

11月16日(土)・17日(日)のアートポリス見学ツアー天草コース2日目、建設中の「牛深ハイヤ大橋」を見学した。全長883m、牛深の海に美しい弧を描くこの橋は、くまもとアートポリス事業中、最大の規模。参加者は「橋自体が主張しすぎないよう、牛深の風景に溶け込んだ設計が施された」という牛深漁港連絡橋建設事務所副所長大平力氏の説明を聞き、実際に橋を歩いてみた。



巨大水塔は、うしぶか海彩館の目玉となりそうだ

全国から大集合！ 人と地域と建物と アートポリスに触れる旅



「人の流れ、風の流れを大切に設計しました」八代市立博物館の前で、ツアー参加者に説明する伊東豊雄氏

伊東豊雄・武田光史・青木淳先生が同行参加 建築家みずからナビゲーターに

7つのツアーの先頭をきったのが、8月23～25日の夏休み見学ツアー。三角港フェリーターミナル、八代消防本部、八代市立博物館、ふれあいセンターいずみ、清和文楽館、馬見原橋、杖立橋、草地畜産研究所など、県央から阿蘇をめぐるバスツアーには、プロジェクト設計者の伊東豊雄、武田光史、青木淳の3氏が同行。設計者から生の説明を受け、参加者たちはメモをとったりスケッチしたり熱心に聞き入っていた。また、宿泊地では、設計者を囲んで熱い交流が行われた。



「先生が建築家になると思ったのは？」日奈久の旅館金波楼で、伊東豊雄氏、武田光史氏を囲んでの交流会



「壁根にも九州山地の杉をたくさん使って…」と、武田光史氏

牛深の新名所・うしぶか海彩館は、 97年春にオープン！

アートポリス見学会は、11月16日(土)・17日(日)に行われた天草コースで全日程を終了した。一般の人が参加したこのツアーは、三角港ターミナルや天草ビジターセンターなどアートポリスプロジェクト参加作品に加えて、天草の主な観光地を巡った。ツアー最終見学地は、平成9年4月のオープンを目指して工事が進められている「うしぶか海彩館」。館内では、設計を担当した内藤事務所の竹中英彦氏による説明を聞いた。



都市デザインサミット

11月2日(土)~4日(月)、熊本県立劇場演劇ホールにて、7カ国29人のゲストが参加する都市デザインサミットが開催された。構成は3部に分かれ、今回の熊本国際建築展のテーマである「環境・文化・ひと」を軸に、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、オーストラリアのさまざまな地域や立場の人が、都市デザイン、まちづくり、文化などについて語り合った。「くまもとアートポリスは、文化としての建設事業を通して、都市環境やまち並みに対する人々の意識向上を刷新する」というこれまでのテーマを基に、今後どんな問題を模索し、どんな拡がりのあるテーマへ展開していいのか。8年を数えるくまもとアートポリスの成果をここで一度振り返り、今後の方向性を考えるための意見・提案がなされた。そして、各国にくまもとアートポリスを深く理解してもらうよい機会となった。

Kumamoto Artpolis '96

国際交流シンポジウム

11/2
Saturday, November 1996

【第一部】
「アーバニズムとしての建築展」

世界的な視点でまちづくりを考える



磯崎氏を議長に国際色豊かな発言が飛び交った1日目



第1部の2日目には、KAPの建築家が参加。岡部憲明氏を議長として地域性と国際性について考えた

国内外の事例を基に、建築哲学を考える

11月2日(土)の午後から3日(日)の午前中にかけて、都市におけるまちづくりをテーマに議論が交わされた。まず、スペインのサンチャゴ・デ・コンポステラのヘラルド・エステベス市長、オランダのグロニンゲン大学のエド・タヴェルヌ教授、フランスのランドスケープ・アーキテクトのアレクサンドル・シメトフ氏の3人が、それぞれの特徴あるまちづくりについてプレゼンテーション。

次に、磯崎新氏を議長に、国内のまちづくりプロジェクトに携わる代表者たちが参加し、議論。その後、都市計画や環境デザインに詳しいコメンテーターが参加して、意見が交わされた。

2日目は、前日の議論をふまえた上で、二期のプロジェクトを手がけたKAPの建築家と交え、さらにディスカッションが続いた。

Kumamoto Artpolis Commissioner
磯崎 新
Arata Isozaki

今日の建築は
たった一つの方法では
成り立たなくなっている



国際的な見地から建築の未来を模索する磯崎氏

すべての議論の前に、まず磯崎新コミッショナーの基調講演があった。磯崎氏は、水保で行われた国際的なコンペやベニスでの世界建築ビエンナーレの例をあげ、世界の歴史や阪神大震災を振り返りながら、これまでのモニュメントとこれからのモニュメントのあり方の違いを述べた。そして、「体系的にまちづくりをするのではなく、建物一つ一つのクオリティを上げ、その点を一つ一つつなげながら何十年というスケールでまちを作り上げていきたい」というアートポリス構想の理念を再確認。「熊本のいい点は海や川や山など、あらゆる自然の地形が備わっているところ。それをどう生かして物語を作っていくか、担当する建築家の一人ひとりが決めればいい。そして、複雑性や不気味さを抱えた時代にどうやって新しいビジョンを組み立てていくか、個別的な議論をすることによって、我々はもっと前に進んでいけるはず」とその後の議論への期待を語った。



第2部では、アートと建築の関わりがさまざまな議論に広がった

アートはまちに何を発信できるか?

2日目午後からの第2部は「新たなパブリック・アートをめぐって」と題して、建築を新たな視点から考察する試みが行われた。ゲスト・プレゼンターとして、海外からロサンゼルス現代美術館の館長であるジュリー・ラザール氏、アメリカのアーティストでありアクティビストのリック・ロウ氏、オーストラリアのメルボルンにあるRMIT環境デザイン建設学部の学部長レオン・ヴァン・シャイク氏の3人を招待。日本からも、広島県の灰塚ダムアースワークプロジェクトに関わった岡崎乾二郎氏、山梨県アートキャンプ白州の事務局長を務めた木幡和枝氏、福岡のパブリック・アート展「ミュージアム・シティ・天神」実行委員会の事務局長の山野真悟氏が招かれ、アートという分野からそれぞれに自分たちの活動を説明した。その後、第二期のKAPの建築家たちが加わり、各自の建築物をスライドを交えて説明。くまもとアートポリス・ディレクターの八束はじめ氏を議長に、異なるジャンルの立場から、白熱した議論が交わされた。

【第二部】
「新たなパブリック・アートをめぐって」
11/3
Sunday, November 1996

アートポリスフォーラム

「くまもとアートポリス'96」の最終日、11月30日(土)に熊本県立劇場演劇ホールで行われたアートポリスフォーラム(参加者550人)。まず、福島謙二知事が「多くの人の協力で全日程を無事に終えることができました。今後もアートポリスを推進していきたい」と閉会の挨拶。その後、県民から一般公募したアートポリスマニターへの感謝状贈呈と意見発表、4人のゲストを迎えて「私たちにとってのアートポリス」というテーマのフォーラムが行われた。



大ラウンドセッションになったサミット3日目

ジャンルを超えて コミュニケーションを

3日目の第3部は、第1部・第2部に参加した人の中から18人がステージに上がり、自由なラウンドセッションとなった。そして、異なるジャンルの人との積極的なコミュニケーションの重要性や地元の人たちとのコミュニケーションの必要性などが、あらためて見直され、今後のアートポリスの方向性も提示。最後に、この日の議長を務めた八束はじめ氏の総括講演で幕となった。

サミット期間中は、合同を見て外国からの参加者のために、お茶やお花のレセプションが行われ、シンポジウムの後は、交流を深めるための交流会も開催された。



サミットの合同に、お茶の作法を習う外国人ゲストたち

11/4
Monday, November 1996

【第三部】
ラウンド・セッション
総括

感動、ふれあい、発見...、
さまざまな成果を上げたくまもとアートポリス'96。
それぞれが、未来のアートポリス像を語る。



モニターの一人、横田直子さんは「アートポリス事業には、もっと多くの地元の人を巻き込むべき」と意見を発表



「熊本から世界へ向けて情報発信ができた」と福島知事があいさつ

すべての作品に感動。

アートポリスマニターへの感謝状贈呈では、20名のモニター(6名欠席)一人ひとりに福島知事から感謝状が手渡された。続いて、3名が「くまもとアートポリス'96」についての意見を発表。「見た作品すべてに感動」「アートポリスを身近に感じることができた」という声のほか、「造り手(設計者)と使い手の間にへだたりを感じる」といった意見も聞かれた。

4人のゲストスピーカーが、今までのアートポリス、未来のアートポリスについて語り合った



フォーラムでは、観客からも多くの意見が出た。「お年寄りや障害者も使いやすい建物を」という声も聞かれた

新しい風景をつくるための文化運動。

フォーラムは、「アートポリスを考える会」顧問の堀内清治氏をコーディネーターに、熊本日日新聞社論説委員長の久野啓介氏、エッセイストの海悦子氏、造形作家の島田満子氏、オフィス・ムジカ代表の西嶋公一氏の4名を迎えて行われた。「アートポリスは新しい風景をつくるための文化運動」「アートと機能のせめぎあいアートポリスだ」と、それぞれのアートポリス像を語り合った。



磯崎 新

PRESENTER & GUEST CRITIC PROFILES

都市デザインサミット参加者紹介



八束 はじめ



ヘラルド・エステバン・フェルナンデス



アレクサンドル・シュメトフ



エド・タヴェルヌ



W・スミンク



N・フェルドンク



磯崎 新



堀池 秀人



川井 貞一



ジャン・ルイ・コーエン



レオン・ヴァン・シャイク



テイ・ケン・スーン



ヴィルヘルム・クラウザー



ジュリー・ラザール



リック・ロウ



岡崎 乾二郎



木幡 和枝



山野 真悟



長谷川 祐子



堀内 清治



岡部 憲明



桂 英昭



新井 清一



入江 経一



内藤 廣



青木 淳



マニエル・タルディッツ



武田 光史



石田 敏明



塚本 由晴



吉松 秀樹

まちづくり展

Kumamoto Artpolis '96 アートポリスマちづくり展



見つける、つくる、親しむ、
アートが城下町を彩る。



アーケード街に展示されたアートポリスのパネルに、街行く人も足を止めて見入っていた



熊本まちづくり展で使用された建物が、アーケード街を彩った



「熊本まちづくり展」のオープニングとして、11月9日(土)、「建築の原点を探る」というシンポジウムが開催された



シンポジウムでは宮木竹雄氏をコーディネーターに、松田寛和氏、山口祐造氏、鈴木明氏、大住和子氏を迎えパネルディスカッションが行われた

F.L.ライト展 時を超えて共鳴する ライトの作品とアートポリス。

アメリカの建築家、フランク・ロイド・ライト。熊本県立美術館分館では「フランク・ロイド・ライト展」として、9月3日(火)から8日(日)まで「日本に残るライトの建築展」が開催。7日(土)には、上通フィーリングホールで、「ライトが残したものの、KAPが残すもの」というテーマのシンポジウムが行われた。



建築展では、ライトの日本に現存する作品のうち、帝國ホテル、山邑邸、自由学園明日館が、ビデオやパネルで紹介された

アートストリート 通り中にアートがあふれます。

熊本市の上通、下通、サンロード新市街のアーケードを会場に、10月29日(火)から11月5日(火)の一週間にわたってアートストリートが行われた。期間中、アートポリス参加作品のパネルを展示。10月26日(土)には、熊本市内の小学生を対象に、熊本の街のよさを知ってもらおうと「環境・文化発見オリエンテーリング」も行われた。



熊本市、山鹿市、阿蘇町、清和村、泉村の各市町村で、地域主体のまちづくりイベントが行われた。自分たちの住む「まち」について考え、地域づくりに役立ててもらおうと開催されたもので、シンポジウム、スタンブラリー、ワークショップ、交流会などイベントの内容は地域によりさまざま。地域の住民が多数参加し、講演会などを通じ、自分たちの「まち」や、地域づくりについての認識を高めた。



熊本まちづくり展

アートステーション 街がアートを発信する。

下通、上通周辺を会場に行われたアートステーション。通り沿いの空き地を利用してオブジェの展示や、二の丸公園での「けんちく祭り'96」(参加者8000人)などが、10月29日(火)から11月5日(火)の期間中に行われた。



城東町の九州電力跡地に展示された作品は、インターネット上で共同デザインされたもの

下通の21世紀グループ空地には、竹田康宏氏のオブジェが展示



通りだけでなく、店舗の前にもパネルが展示された

学生シンポジウムVS21 建築における理想と現実について プロと学生のトークバトル!

11月4日(月)、阿蘇草千里の公衆トイレをテーマに、実際の設計者である塚本由晴氏を招いて、学生対プロのトークバトルが行われた。まず前半は、公募で選ばれた10グループの大学生が、自分たちのトイレ案をプレゼンテーション。その後、塚本氏をはじめとするプロ側から意見が述べられるという形で会は進んだ。後半はフリートーク。会場からも意見が飛び出すなど、かなり白熱した会となった。



予定時間をオーバーするほど盛り上がり、いろいろな意見が飛び交った



プレゼンテーションにはスライドを使用



アートストリートの一環として行われた「環境・文化発見オリエンテーリング」では、車いすの紙製体験も行われた



「環境・文化発見オリエンテーリング」には、小学生のグループや親子連れが多く参加した

竜蛇平団地夏まつり 人が集い、住むことで、 建築は成長する。

アートポリス参加作品の県営竜蛇平団地で、8月24日(土)、夏まつりが開催された。設計者の元倉眞琴氏を迎え、団地の住民のほか近所の住民も含め約300人が参加。バザーや盆踊りで夜遅くまで賑わった。

団地の住民による音楽演奏やカラオケ大会も行われた

豊前街道がよみがえる。伝統と調和したまち、山鹿



常田さんは、「まちの人が山鹿をもっと知るように、まちの宝探しをしてはどうか」と提案

地元の良さを認識すると、これからの山鹿が見えてくる

豊前街道のまちなみを復活させ、古さと新しさが調和するまちをつくらうと開かれた山鹿まちづくり展。豊前街道沿道をメイン会場に、10月12日(土)～18日(金)の1週間開催(参加者延べ6500人)された。12日のオープニングイベントでは山鹿太鼓や山鹿灯籠踊りなどを披露。13日には、八千代座や蔓蓑舞など豊前街道沿い9カ所のスタンプ会場を回るスタンプラリーがあった。参加者たちは「日頃見すごしている風景をゆっくり見ることで地元の良さを改めて認識しました」と新たな目で山鹿の良さを感じていた。また最終日の18日には豊前街道の歴史を考える寺子屋塾も開かれた。



オープニングイベントは、人力車に引かれた灯籠娘のパレードで始まった。豊前街道を歩く姿はまるで江戸時代のように



天麩の酒蔵では豊前街道の絵圖版やシノラマ放映などが開かれた。たくさん観光客が興味深げに眺めていた

山鹿まちづくり展



パネリストたちは自分の故郷と山鹿を比べ「山鹿は浴衣とゲタが似合いますね」「豊前街道は歩いて回ったらどうか」などと話していた

山鹿は一つ、大家族。気持ちの交流ができるまちをつくらう

10月13日(日)には、山鹿市市民会館で「伝統と未来のまちづくり講演会」が開かれた。第一部では小松一三氏をコーディネーターに、熊本県内在住の3人の外国人をパネリストに迎え、「わたしの国と日本」と題してディスカッション。続く常田富士男氏は、2つの物語を通して「気持ちの分かちあえる、家族のようなまちづくりをしましょう」と語った。

木組みの技術が光る。伝統文化を育てる。



扇子の要のように木と木を重ねて固定していく。建築関係者も初めての施工体験にとまどいながら

清和文楽館の3分の1模型組み立てに挑戦

8月3日(土)、清和文楽館にて、清和文楽館の建築の際に用いられた工法の3分の1模型の組立体験が行われた。参加者は建築関係者や高校・大学の建築科の学生など約50名。午後の部には福岡県の建築科の高校生97名もこれに加わった。3分の1模型を使い、午前中は展示棟の屋根に用いられた「バット工法」、午後は客席棟の天井に用いられた「騎馬戦手組工法」に取り組んだ。参加者たちは、ヘルメットを付け、交替で足場に登り、組立作業に参加。設計者の石井和雄氏との専門的な質疑応答も盛んに行われた。また、石井氏は、清和文楽館をきっかけに木造建築の規制が緩和されたことある現状を報告した。



石井和雄氏は日本で初めて騎馬戦手組工法に取り組んだ設計者。工法の基本的な考え方を披露した

清和むらづくり展

調べてみたよ。文楽のこと、文楽館のこと。分かったよ、清和のこころ。

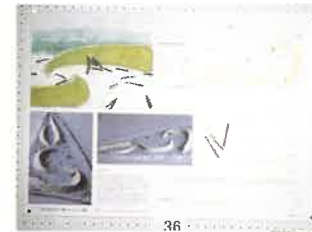
8月4日(日)、清和文楽館にて「村づくりフォーラム」が行われた。子ども未来フォーラムでは清和小学校の5、6年生が「文楽の里」づくりについて調査したことを発表。続いて、同館の兼瀬哲治支配人が、アートポリス事業に取り組んだ経緯をスライドを使いながら報告した。

「あった！ 私の家ここだよ」。体育館の床いっぱい描かれた村の地図には、村人が考えた好きな所も写真で紹介された



最後に、千葉大学助教授の木下勇氏が「私の風景を守り、進め～未来を拓く全員参加の地域づくり～」と題して講演。「住民全員が好きな風景を語り合い、未来の風景(地域づくり)をつくっていかう」と提言した。

描き、考え、感じる。雄大な阿蘇をもっと身近に。



「阿蘇町農村公園アートプロジェクトコンペティション」で最優秀賞に輝いた藤正人さんの作品

阿蘇まちづくり展

阿蘇まちづくり展が、10月21日(月)～27日(日)、阿蘇町の農村環境改善センターをメイン会場に行われた。先趣けて、アートポリス事業の最新のプロジェクトにあたる「阿蘇町農村公園アートプロジェクトコンペティション」も開催。10月18日(土)には、くまもとアートポリスコミッショナーの磯崎新氏を招いて、町民体育館で公開審査があり、作品が決定された。

ほかに、早稲田大学の宮口侗徳教授を招いて阿蘇地域の将来像を考える「まちづくりシンポジウム」や、町内を徒歩や自転車で回る「まちづくり体験オリエンテーリング大会」なども行われた。



あらためて阿蘇町の魅力に触れた「まちづくり体験オリエンテーリング」



「阿蘇町農村公園アートプロジェクトコンペティション」の公開審査会場には、167点の全応募作品が張り出された

これからの都市と農村の交流基盤をつくる。未来へ伝えよう。秘境・五家荘の宝たち。

「都市と山村の交流基盤をつくらう」と訴えた国土庁審議官の斎藤章一氏

KAP熊本国際建築展



泉むらづくり展



「泉村にたくさんの方が訪れるようにしたい。」村内の小学生による、未来の泉村の絵と作文が展示
野菜、茶、海産物など、山の幸海の幸で大にぎわい



4人のパネリストに加えて、会場からも熱心な意見が飛び出した

9月14日、ふれあいセンターいずみの工事現場で、泉むらづくり展が行われた。参加者約300人。国土庁審議官の斎藤章一氏が「都市と山村の交流」と題して講演した後、ふれあいセンターいずみの設計者武田光史氏をはじめ、運営ソフト担当の清水義次氏、久連子古代の里担当建築家の内田文雄氏、清水弘村長をパネリストに、パネルディスカッション「泉村の価値を語る」を開催。久連子古代の里の完成とふれあいセンターいずみの棟上げを記念し、今後の施設の活用法や村づくりのあり方について議論が交わされた。姉妹町である大矢野町と泉村の特産品即売、五家荘写真展なども、同時開催された。



昼食時に披露された栗木神楽。平家伝説の哀しさに胸うたれる舞い

Kumamoto Artpolis '96

アートポリス協賛事業

アートポリスにオーケストラがやってきた！
◆熊本市営新地団地



ラストは、会場の人も参加し、一緒に「奈とんぼ」を合唱

クラシックとの新しい出会いが誕生。

隣近所を誘い合わせて音楽鑑賞。



傾斜がある中庭の芝生は、絶好の音楽席に

秋晴れの9月21日(土)、熊本市営の新地団地D棟とE棟の間の中庭で、クラシックの野外コンサートが行われた。出演は、熊本ユースシンフォニーオーケストラと、熊本シテリオペラの佐久間信一氏と志岐由里子氏。演奏はまだ明るい午後6時から、夜の8時近くまで続いた。途中、楽器の紹介なども行われ、団地内外の人々は、芝生に腰を下ろしたり、ビデオ撮影をしたり、ベランダからのぞいたり、自由に楽しんだ。



10日(日)には、手作り木工教室が行われ、小学生の親子連れなどが、本棚やパズルなど思いおもいの作品を作った

夢のまちをドローイング。



高校生をはじめ、地元の人たちで賑わった

グリーンゲイトアートポリス展
◆つなぎ物産ギャラリー

10月7日(月)から21日(月)にわたって、津奈木町のつなぎ物産ギャラリーグリーンゲイトで行われた展覧会。水保工業高校の建築科の生徒たちによる製図展、町内の小学生が描いた、グリーンゲイトの絵などが展示された。また、水保高校、戸北高校、津奈木中学校などの大きな体育祭パネルも、国道3号から見える位置に飾られた。

水がはじける、人がきらめく、橋が結ぶ人々の心。

水遊祭 ◆馬見原橋

蘇陽町に伝わる火伏太鼓の演奏で、幕を開けた水遊祭。7月27日(土)に開催されたこの祭りは、馬見原橋周辺が会場。橋の下を流れる五ヶ瀬川での「いかだ川下り」レースや、住民による「まちづくり討論会」などが行われた。いかだレースには、中学生や役場職員などが、ふんどし姿や漂流者姿に仮装して参加。デザイン、ユニークさ、スピードなどで競い合った。「まちづくり討論会」は、子ども討論会、大人討論会の2回にわたって開催。町長や町の三役も参加し、まちづくりについて話し合った。

夜は橋の上で「"ほのぼの" 花火大会」やカラオケ大会が開催。青年団によるバザーもあり、9時過ぎまで賑わった。住民からは、「楽しかった。来年もやって欲しい」との声も上がっていた。



夜は、ビアブリッジ!?に早変わり



「がんばれー！」橋の上から声援がとぶ



子どもたちも、まちづくりについて熱心に討論

1996サマーフェスタ
有明フェリー「サンライズ」納涼船
◆長洲港フェリーターミナル

アートをくぐりぬけ、夏の夜へ出発。



船内には屋台も設置。ヨーヨー釣りやお楽しみ抽選会なども開催された



フェリーターミナル内の物産販売では、乗客と地元の人との触れ合いも見られた

毎年、夏に運航している有明フェリーの納涼船。長崎の多比良港出航と長洲町の長洲港出航で、それぞれ7月26日(金)から30日(火)、31日(水)から8月4日(日)の5日間ずつ運航した。運航期間中、長洲港フェリーターミナルでは、小笠原、海産物の販売、長洲金魚の金魚すくいなどが行われ、船に乗るために集まった人々が買い物や金魚すくいを楽しんだ。

乗客は、子どもからお年寄りまでさまざま。船内では、太鼓演奏、バンド演奏なども披露され、乗客たちは、ビールやジュースを片手に、思いおもいに船上の夏の夜を過ごした。



石田敏明氏設計のフェリーターミナル。3階は展望デッキになっている

松橋町まちづくりワークショップ

11月16日(土)に宇城ショッピングプラザバルシェにて「松橋町まちづくりワークショップ」が開かれた。アメリカからカリフォルニア工科大学教授ドリーン・ネルソン氏とレグ・ゴニック氏を迎えてのワークショップ。松橋町内の小学校4校の5、6年生と小川工業高校1年生が、ドリーン先生が開発した教育プログラム「まちづくり教育」のによって100年後の松橋の町を造り上げた。100年後のまちには空飛ぶマンションがあったり、過去未来トンネルがあったり。「今までにないまち」が出来上がった。



「まず、まちにいるもの、いらないものを考えよう」とドリーン先生。次に、町長や住民委員などを決め、民主主義のまちづくりを行った



「1回切った木は二度と元通りにはなりません」というドリーン先生のアドバイスを受けて作業開始



「未来だから何でもあり！」と箱やビニールでまちをつくる子どもたちは楽しそう。思いつくまま組み合わせて形にしていた



2人の先生は、インターネットを使ってまちづくり教育を行っている

宇宙に続く道、空飛ぶマンション…
みんなのでつくる100年後のまち



人がまちをつくり、まちを変えていく。みんなのアイデアで出来上がったまちは独創的。犯罪も公害もない住みやすいまちだ

橋梁デザイン・シンポジウム

熊本県建築士会主催で、10月29日(火)、熊本市上通の同仁堂スタジオ・ライブで開催された。複雑化していく建築デザインに対応するため、土木と建築の相互理解を深めようといわれたこのシンポジウム。土木、建築関係者をはじめ、学生などが訪れた。

まず、熊本大学助教授の小林一郎氏を迎え「フランスの橋・くまもとの橋」というテーマのもと基調講演。続いて、建築家、行政担当者、設計者など各方面で活躍しているパネリスト5人を加え、「橋梁デザインの新たな展開」をテーマに意見を述べ合った。その後、1時間半にわたって交流会も行われた。



基調講演を行った小林氏は、熊本大学環境システム工学科の助教授

土木と建築を結ぶデザインの掛橋。



シンポジウムでは、「風景として心に残る橋を造ろう」という声も聞かれた

見て、触れて、アートポリスを彩るイベントたち。

熊本県技能祭ハンズワールド'96

10月10日(木)から14日(月)、熊本市の白川河川敷で開催。和洋裁・調理・造園ゾーン、建築ゾーンなどに分けられ、それぞれの作品展示や即売、実演などが行われた。



イスやテーブルなどの展示品は即売もされ、それを目当てに訪れる人も多かった

デザインを支える
プロの技術が大集合。

パースの向こうにアートが見える。



細かい所まで精密に描かれたパースに、見学者からは感嘆の声ももれた

熊本建築パース展

八代市では八代市立博物館未来の森ミュージアム、熊本市では熊本県建設業会館で行われた。熊本県営常山A団地や牛深ハイヤ大橋のパースなど、約40点が展示された。



熊本の街の色が持つイメージについて、アンケート調査も行われた

くまもと街の色 カラーシミュレーション

9月19日(木)から24日(火)、熊本市上通の上通ギャラリーで開催。熊本の街並みの色が変わったらという設定のもと、シミュレーション作品の展示などがあった。

街の色はなんでも、
色で考えるくまもとの街。

21世紀に守り継ごう、
くまもとの自然。



未来に残すべきくまもとの自然環境について、意見が交わされた

第4回国際交流デザイン展

熊本市の鶴屋百貨店で、11月4日(月)から14日(木)にかけて、日本、フランス、スペインの学生のデザイン画やポスターなどが展示された。

日本、フランス、スペイン、
若きデザイナーの卵たち。



熊本デザイン専門学校と、海外姉妹校の学生の作品が展示された

くまもと未来環境づくり 進・歩・住・夢

11月20日(水)、熊本国際交流会館で開催。熊本の自然環境をテーマに、講演会やディスカッションが行われた。

「くまもとアートポリス'96」の協賛事業として、県内各地でさまざまなイベントが行われた。セミナー、展示会、祭り、シンポジウムなど、18のイベントが開催。町や民間企業など主催者も多岐にわたった。それぞれのイベントには、多くの人々が訪れ、それぞれの「アートポリス」、「くまもと」、「環境」を再認識していた。